

1 背景

ごみの処理については、次の課題があります。

- ごみの処理量は、処理経費や施設の維持管理費を抑えるために減らさなければなりません。
- 紙類や容器包装プラスチック等の資源再生物が、不分別により可燃ごみの中に混入しています。
- 自治会によるごみステーションの維持管理が難しくなっています。
- 超高齢社会を迎えるにあたり、ごみ出し等が困難な高齢者が増加しています。



それぞれの課題が重なり新しい課題を発生させる要因になっています。
包括的に解決するための施策として国等から提言されたのが、「戸別収集」及び「ごみ袋の有料化」です。

2 これまでの取組

- 平成28年(2016年)7月に平塚市廃棄物対策審議会へ諮問し、平成30年(2018年)3月に答申。

諮問内容

ごみ袋の有料化等の市民負担を強わずに戸別収集の導入が可能か？



答申内容

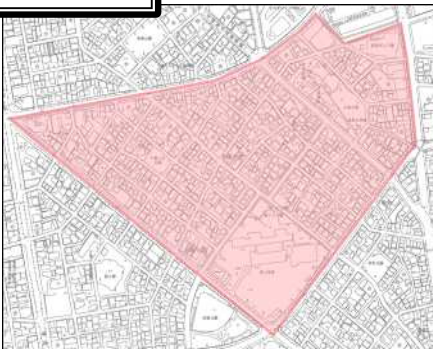
家庭から出るごみの量は、順調に減少しているため、ごみ袋の有料化をせずに、現行の収集体制を最大限活用してできるか社会実験して検証すべき。

- 平成30年(2018年)3月の答申を踏まえ、社会実験前に福祉収集の拡充等の検討・実施
- 令和元年(2019年)10月に可燃ごみ戸別収集の社会実験開始

検証項目

収集距離 収集時間 収集エリア(道路状況、住宅密集の状況) 収集量 使用車両の数と種類 収集効率 など

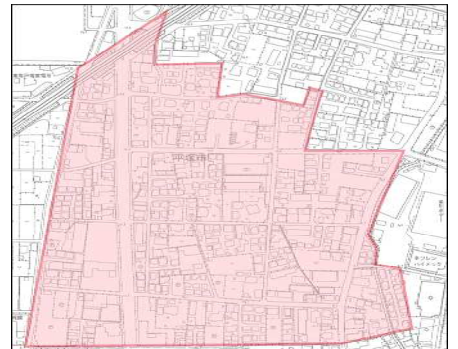
モデル地区



夕陽ヶ丘地域の一部



立野町地域の一部



大神地域の一部

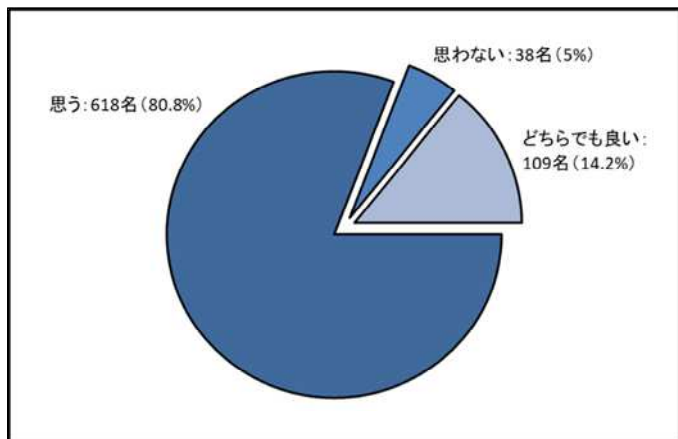
- モデル地区としては、次の視点をもとに3つのエリアを設定しました。
- ・狭小路地が多く、物理的に塵芥車が進入できないエリア
 - ・平地の住宅密集地であり、塵芥車の平均走行速度が時速5キロ程度のエリア
 - ・戸建ての住宅が点在しており、ごみステーション間の距離が長いエリア

・社会実験モデル地区居住世帯に対するアンケート調査

令和元年（2019年）10月から実施した社会実験について、次のとおりモデル地区に居住する世帯に対し、アンケート調査を行いました。

標本数	配布 1,372件	回収 864件
回収結果	有効回収数 765件	有効回収率 55.8%

質問「戸別収集は継続した方が良いと思いますか。」



アンケートの結果、戸別収集を継続した方が良いかの質問に対し、約80%の市民が継続した方が良いと回答しています。これにより戸別収集は一定の満足度を得られ、同時に期待値の高い施策であることが確認できました。

また、公道上からごみステーションを廃止したことにより、景観が向上したかどうかの別の質問に対しては、約69%の方が良くなったと回答しており、戸別収集は景観の向上に効果的であることが確認できました。

戸別収集によって、ごみの減量化・資源化に対する意識は変わったかという質問に対しては、約50%の方が変わったと回答しています。

・社会実験からの推計

社会実験を通じて得られたデータから、戸別収集を市全域に拡大する際に必要となる作業員数、収集車両数等を推計するとともに、減量化の効果を検証しました。

事前に分かっているデータ

平塚市における近年の家庭系可燃ごみの排出量は、1人あたり1日450グラム

平塚市の全人口約26万人で考えると、1日あたり約116トン

平塚市の収集エリアは全部で、148地区

平塚市の収集曜日は、月曜・木曜日、火曜日・金曜日の2ブロック制

社会実験から得られたデータ

(ア) 平塚市の収集エリアを1日で戸別収集するのに要する時間は、延べ270時間

(イ) 平塚市を2つのブロックに分けて、1ブロック収集するのに要する時間は、延べ135時間

(ウ) 1ブロック74地区とすると、1地区の作業時間は、1時間48分

(エ) 1ブロック74地区とすると、1日の排出量は116トンの半量、約58トン

社会実験の推計

1ブロック74地区

(例) 月曜日・木曜日収集

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
収集量	232 t	月から水までの3日			174 t	木から日までの4日分	

月曜日の232tを、135時間で収集するには、収集拠点から環境事業センター（焼却場）の往復は原則3回です。232tを3回で終わらずには、1回で77.5t運ばなくてはなりません。1往復77.5t運ぶためには収集車両13台、作業員については26人不足すると推計しました。

社会実験のモデル地区の令和元年（2019年）11月から令和2年（2020年）6月までの1人1日あたりの排出量370gに対し、同期間でのモデル地区以外の市内全域の1人1日あたりの排出量444gを比較すると、戸別収集にすることで約17%の減量効果が見込めると推計しました。

3 排出方法の現状と課題

現状

超高齢社会の進展、自治会未加入者の増加等によって、ごみステーションの維持管理が困難になっている。

ごみステーションまでごみを運ぶことが困難な高齢者世帯や子育て世帯がいる。

対応策

戸別収集

4 収集体制の方向性

将来に向けて安定したごみの排出及び収集を行っていくためには、「ごみステーション収集」から「戸別収集」に収集方法を切り替える必要があり、モデル地区居住者へのアンケート結果からも期待値は高いことが分かりました。本市のごみ収集業務は、平塚市行財政改革計画に基づく取り組みにより効果を上げてきました。戸別収集の導入においては、社会実験から明らかとなった課題も解決し、民間活力の活用を検討する必要があります。また、市全域で戸別収集を実施するためには、安定して業務を履行できる事業者を選定等し、可燃ごみの収集体制を整える必要もあります。

今後は、車両、作業員、ごみ量等継続的なモニタリングを行い、速やかに市全域で戸別収集が実施できるよう体制を整えます。

車両・作業員の不足

安定した業務の履行

民間活力の活用

事業者の選定等

5 今後の取組

戸別収集の市全域での導入に際しては、中長期的な視点での検討が不可欠であり、課題を着実に解決していくために、移行期間を設定する必要があります。そのため、市全域での一斉導入ではなく、戸別収集エリアを順次に拡大していくことを検討しております。平塚市一般廃棄物処理基本計画及び関連する施策等とともに地勢等を考慮し継続的に改善を図り最適な戸別収集の実現に向けて取り組んでいきます。

お問い合わせ先

平塚市役所 環境部 環境政策課・収集業務課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9-1

電話 0463-23-1111(内線2238)、FAX 0463-21-9762